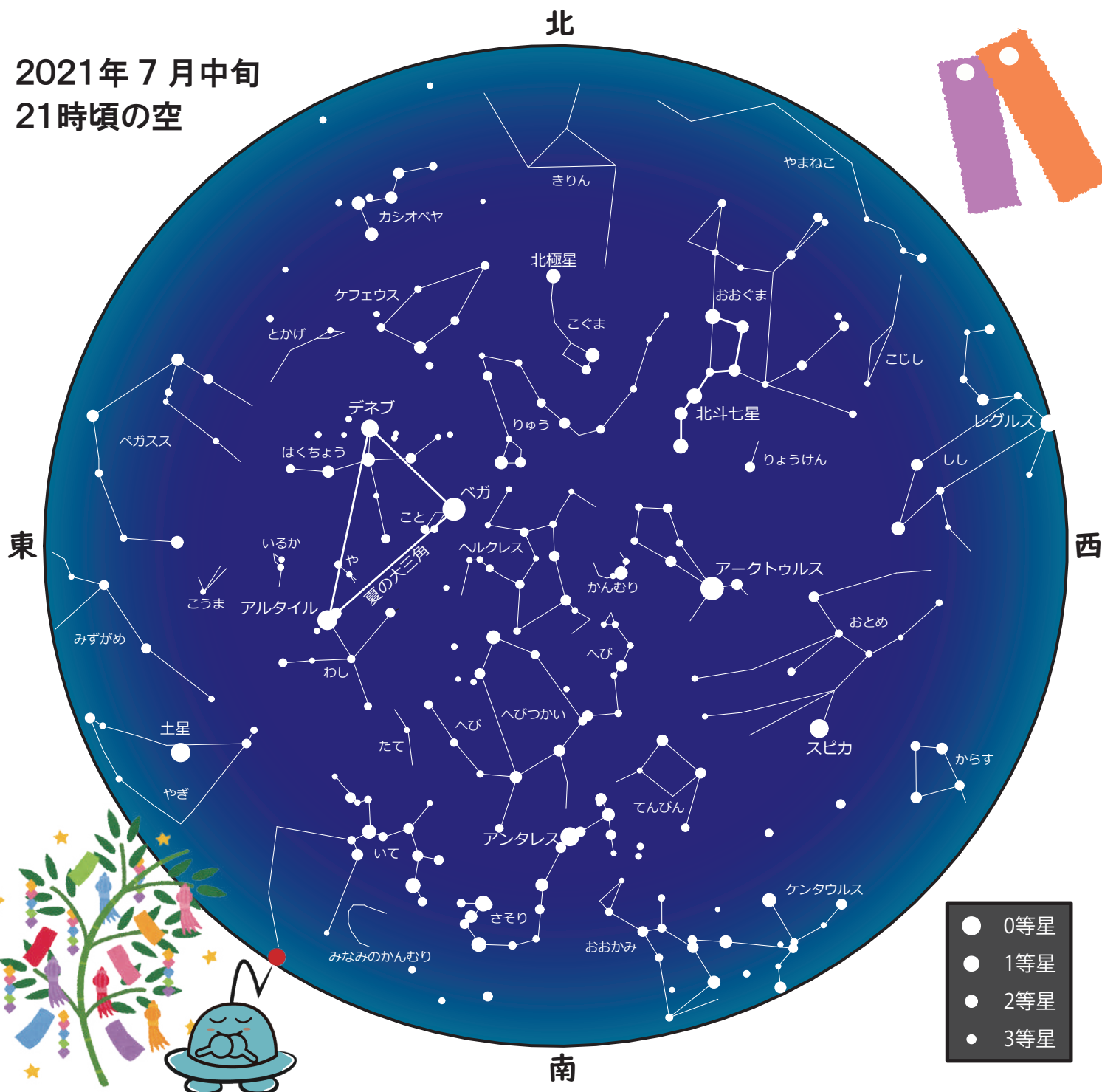


# 7月の星空案内

2021年7月中旬  
21時頃の空



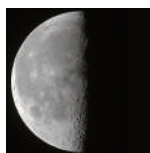
7月に入り夏本番となるこの時期、夜空でも夏の星座たちが見ごろをおかえます。東の空の高いところで、明るい3つの星を結んで三角形を作ってみましょう。小学校で使う三角定規のようなこの形が夏の大きな三角形です。3つの星を見てみると、少し明るさが違うのに気がつきます。1番明るい星はベガ(約0.0等)、次に明るい星はアルタイル(約0.8等)、最も暗い星はデネブ(約1.2等)です。ベガのあたりにはこと座、アルタイルのあたりにはわし座、デネブのあたりにははくちょう座があります。夏の大きな三角形をたよりに、3つの夏の星座たちを探してみましょう。

さて、7月の星にまつわる行事といえば七夕が挙げられますね。ベガは織姫星、アルタイルは彦星としても知られています。上旬は梅雨となり、星が見えづらい時期となりますが、晴れた日はぜひ七夕の星を探してみてください。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて【毎週土曜日開催 / 19時～, 20時～, 21時～】

阿南市科学センター 電話 0884-42-1600 <http://ananscience.jp/science/>

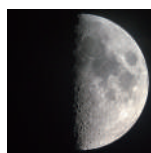
## 7月の月の満ち欠けと惑星について



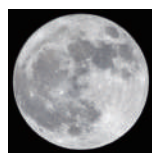
下弦  
2日・31日



新月  
10日



上弦  
17日



満月  
24日

### 7月の天体観望会で月が見える日時は？



7/17(土)・・・20時、21時の回がお勧め



7/24(土)・・・21時の回でギリギリ観察可

水星：上旬頃の夜明け前、東のごく低空に見える。【約0.4等】

金星：日没後、西の低空に見える。【約-3.9等】

火星：日没後、西の低空に見える。【約1.8等】

木星：夜遅く、東の空から昇り、夜明けまで見える。【約-2.7等】

土星：夜遅く、東の空から昇り、夜明けまで見える。【約0.3等】

※水星は上旬頃、他の惑星の等級は中旬頃の明るさとなる。

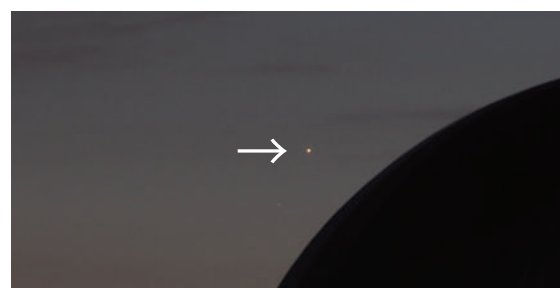


写真1. 5月29日に撮影した科学センターのドームと金星 (by A.Suzuki)

## 7月のおすすめ天体

### ★天の川見よう

七夕の織姫と彦星の間に流れるものという天の川ですが、本物の天の川を見たことがないという方もいらっしゃるかもしれません。実は天の川は時間帯を選ばなければ1年中見ることができます。ですが、見やすい時期というよりは夏です。

天の川の正体は、沢山の星が渦巻状に集まっている、**銀河**と深い関係があります。どら焼きのような円盤形で、銀河の内側から見た星の集団が天の川です。夏の星座の**さそり座**といて座の間あたりは銀河の中心部分となり、多くの星が集まっています。そのため天の川が濃く、比較的に見やすい部分となります。また天の川の星たちは暗い星が多く、街や月の明かりでかき消されてしまいます。天の川を見るときには、街の明かりの少ない場所で、月のない日(7月なら上旬と末頃)を選んでみてくださいね。

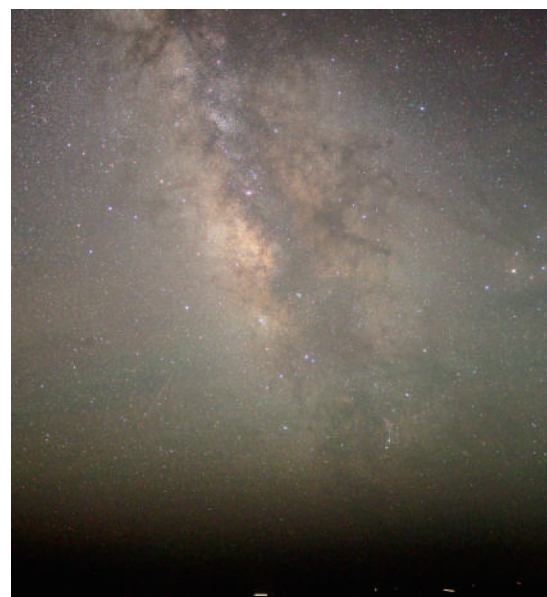


写真2. 県南で撮影した天の川 (by A.Suzuki)

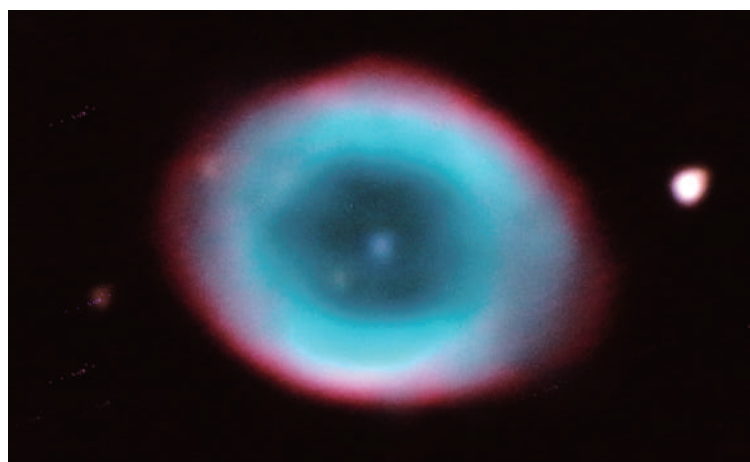


写真3. 科学センターで撮影した M57 (by A.Suzuki)

### ★リング星雲 M57

夏の星座のここと座には、リング星雲(M57)という天体があります。リング星雲は死につつある星の最期の姿です。星の最期は重さによって変わりますが、太陽ほどの重さの星は、最期にこのような姿になるのではないかと考えられています。輪のように見える部分は、星の1番外側のガスが広がっている姿です。ガスが中心にある星の紫外線によって光り、このような幻想的な姿を見せてくれています。織姫星があること座に見える天体ということから、彦星が織姫にプレゼントしたエンゲージリングとして見立てても良いですね。